

第13回 尺八奏法講座 —プロから学ぼう尺八奏法—

日時 2025年2月22日(土) 受付開始 13:30/開講 14:00/終了予定 16:00

講師 川村葵山

会場 studio With The Heart - A スタジオ

(東京都文京区関口 1-15-1 ミサオビル B1F)

東京メトロ有楽町線〈江戸川橋駅〉徒歩1分定

第6回 定期公演 「千紫万紅 —尺八音楽の進化と多様性—」

日時 2025年7月10日(木) 開場 18:30/開演 19:00

会場 すみだトリフォニー 小ホール

「ワールド尺八フェスティバル(WSF) 2025 in Texas」参加者大募集！

尺八界の一大ビッグイベント「WSF 2025 in Texas」は、2025年4月17日～20日(現地時間)にアメリカ・テキサス州「A&M 大学」にて開催され、JSPN は団体として参加します。

期間中はコンサート、ワークショップが連日多数開催され、尺八を楽しみつくすことができる4日間になること間違いなしです。このたび一般参加者の募集が開始されましたのでご案内いたします。尺八に携わるすべての方々と、世界の尺八界を一緒に盛り上げましょう！

《詳細は以下 QR コードからご覧ください》



お申込み/お問い合わせ

一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク (JSPN) 事務局

公式ホームページ <https://www.jspn.org/>

Eメール jspn.sec@gmail.com

●主催：一般社団法人 日本尺八演奏家ネットワーク (JSPN)

●サロンコンサート Vol.7 《プロジェクトチーム》

小濱明人、川村葵山、松本宏平

●チラシデザイン：澤本捨史

尺八サロンコンサート Vol.7

しゅうふうとうげつ
—秋風冬月—

■ プログラム ■

1. 《イオ・パヴェル+中島裕康》

- ・古典本曲「下り葉」
- ・箏絃秘抄 (肥後一郎作曲)

2. 《よろづ^{ふしまちづき}臥待月》

- ・一閃 (dacky 作曲)
- ・彩雲幻想 (dacky 作曲)
- ・舞輝夜 (風間禅寿作曲/dacky 編曲)
- ・秋雲 (dacky 作曲)

—休憩—

3. 《古典の真髄への挑戦》

残月 (峰崎勾当作曲)

4. 《incontro》

- ・秋のおとずれ (本居長世作曲/川路柳虹作詞)
- ・風に吹かれて (藤井清水作曲/野口雨情作詞)
- ・夕暮幻想曲 (福田蘭童作曲)
- ・Sonata (B. マリーニ作曲)
- ・Questo crudo d'amor (P. A. ジラーモ作曲)
- ・'Tis women makes us love (H. パーセル作曲)

2024年12月10日(火) 開場 18:30 開演 19:00

ティアラこうとう 小ホール

《イオ・パヴェル＋中島裕康》

尺八古典本曲「**下り葉**」（横山勝也 監修） イオ・パヴェル（尺八）

尺八の古典本曲「下り葉」は、日本の伝統音楽における重要な作品であり、深い情感と独特の表現力が際立っています。秋の訪れをテーマにしており、落ちる葉を通じて自然の美しさと季節の移ろいを表現しています。演奏者は、尺八の呼吸や音の強弱を巧みに操り、風に舞い落ちる葉や自然の静けさを描写します。この曲は技術だけでなく、感情表現の豊かさが求められ、聴衆に深い感動を与える力があります。（イオ・パヴェル）

箏絃秘抄（肥後一郎 作曲） イオ・パヴェル（尺八）／中島裕康（箏）

私たちの先祖が残した純粋器楽作品は少ないことが指摘されています。彼らは文学的な要素を重視し、器楽的な作品があまり発展しなかった可能性があります、その理由は明確ではありません。少数の器楽作品には豊かな表現が潜んでおり、彼らの精神と感覚は今に受け継がれています。「箏絃秘抄」というタイトルは、竹製楽器と弦楽器を指し、音楽全般を象徴しています。これにより、音楽の多様性と深さが現代においても感じられるのです。（肥後一郎）

《よろづ臥待月》

風間禅寿（尺八）／dacky（作曲）／ゲスト:加藤優花（ピアノ）

よろづ臥待月の楽曲は、映画音楽のような移り変わる情景描写が特徴です。一曲目「**一閃**」では、様々な模様を一瞬にして描き消えていく雷の様子が、凄まじい風雨とともに表現されています。「**彩雲幻想**」では、時間とともに変化する空の色、かつて見た懐かしい記憶と若かれし頃の気持ちに彩られています。月灯りに照らされ踊る姫達の様子を音にした「**舞輝夜**」。そして最後の曲「**秋雲**」は、夏の終わりから秋への移り変わり、山々が赤く染まっていく。そんな季節の移ろいを感じさせます。

今回この四曲を選曲したとき、すべて空がテーマになっていることに気が付きました。みなさんは一日の間にどれだけ空を見上げることがあるでしょうか。子供の頃は雲の形を見るたびに何かと重ね、無邪気にはしゃいでいました。果たして今はどうでしょうか。みなさんの心にある空との思い出を振り返りながらぜひ聞いてみてください。

《古典の真髄への挑戦》 澤村祐司（三絃）／日吉章吾（箏）／田嶋謙一（尺八）

さんげつ**残月**（峰崎勾当 作曲）

地歌箏曲の中でも手事物というジャンルに類される。作曲者の峰崎勾当の門人、大阪宗右衛門町の松屋某の娘が夭折（ようせつ）したのを追善した曲とされる。曲の題名はその法名「残月信女」にちなんだとも言われている。

〈歌詞〉
磯辺の松に葉隠れて 沖の方へと入る月の 光や夢の世を早う
覚めて真如の明らけき 月の都に住むやらん
今は伝手（つて）だに朧夜の 月日ばかりはめぐり来て

《incontro》

中村康紀（ルネサンス・リュート、テノール）／阿部大輔（尺八、バス）／金井隆之（バロック・ギター、テノール）

秋のおとずれ

童謡、唱歌で知られる本居長世（1885-1945）が川路柳虹（1888-1959）の詩に作曲した二重唱曲。

風に吹かれて

民謡の採譜を多く残した藤井清水（1889-1944）の作。山國の冬の情趣を表した素朴な歌曲。野口雨情（1882-1945）作詞。

夕暮幻想曲

随筆家としても知られる福田蘭童（1905-1976）による尺八とピアノの二重奏。

Sonata

バロック初期のヴァイオリン音楽発展に大きく貢献した B. マリーニ（1594-1663）による器楽曲。

Questo crudo d’amor

P. A. ジラーモ（生没年不詳）による三重唱。17 世紀イタリアで流行したチャッコーナ様式の軽快なリズムが特徴。

’Tis women makes us love

バロック期イングランドの大家、H. パーセル（1659-1695）による諧謔的なカノン（輪唱）。